



九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No.245
2014(平成26)年 8月 9日(土)発行

■「うつむいてコピペさらさら原爆忌」「何くわぬ顔して八月平和説き」(『朝日川柳』)
■6日の広島でも、9日の長崎平和祈念式典のあいさつでも、安倍首相は昨年と同じ文章でした。「コピペ(文章の切り貼り)で不誠実だ、被爆者や国民を愚弄している」という批判も強いようです。

《自民党改憲草案》を考える・その⑦ 「第9条」を比較してみると》

《自民党改憲草案》の最大の狙いは第9条を変えること

米国の圧力で「戦争のできる国」に

- <右>が「現憲法」の、<下>が「自民党草案」の第9条です。第1項は現憲法とほぼ同じですが、第2項・第3項では侵略戦争への反省や、不戦や平和の誓いも削除され、基本原理で世界が望む「平和主義」をすっかり破棄してしまっています。
- 第2項で自衛隊をこえる「国防軍」の創設を掲げ、その機密保持をわざわざ条文でうたい、「審判所」まで明記する熱心さで、軍事国家をめざします。
- 第3項は「領土等の保全」を明記し、国民には国土防衛を求める規定を創設し、「戦争ができる国」へ脱皮し米国の要望に応えようとしています。
- 主権在民の普遍の原理も無視し、「国民」よりも「国」が大事という憲法草案です。

平和主義を破棄し、「国防軍」を創設

○日本国憲法・第9条

第二章 戦争の放棄

第九条① 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

○自民党憲法改正草案・第9条

第二章 安全保障 (平和主義)

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動としての戦争を放棄し、武力による威嚇及び武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては用いない。

2 前項の規定は、自衛権の発動を妨げるものではない。
(国防軍)

第九条の二 我が国の平和と独立並びに国及び国民の安全を確保するため、内閣総理大臣を最高指揮官とする国防軍を保持する。

2 国防軍は、前項の規定による任務を遂行する際は、法律の定めるところにより、国会の承認その他の統制に服する。

3 国防軍は、第一項に規定する任務を遂行するための活動のほか、法律の定めるところにより、国際社会の平和と安全を確保するために国際的に協調して行われる活動及び公の秩序を維持し、又は国民の生命若しくは自由を守るための活動を行うことができる。

4 前二項に定めるもののほか、国防軍の組織、統制及び機密の保持に関する事項は、法律で定める。

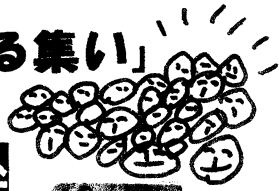
5 国防軍に属する軍人その他の公務員がその職務の実施に伴う罪又は国防軍の機密に関する罪を犯した場合の裁判を行うため、法律の定めるところにより、国防軍に審判所を置く。この場合においては、被告人が裁判所へ上訴する権利は、保障されなければならない。
(領土等の保全等)

第九条の三 国は、主権と独立を守るため、国民と協力して、領土、領海及び領空を保全し、その資源を確保しなければならない。

傍線のところが改訂の条文です!

「憲法・人権からみた福島ofいまと今後を考える集い」

9月13日(土)13:30~ ○会場:相馬市 はまなす館(入場無料)



九条の会事務局長・東京大学教授 **小森陽一氏講演会**

新地・相馬・鹿島・はらまち・小高・相双教職員九条の会:共同主催

○小森陽一氏は、1953年生まれ。東京都出身の日本文学者。特に夏目漱石研究で著作も多い。講演、執筆活動、「九条の会」事務局長として、超多忙な毎日です。これまで南相馬市でも3回のご講演を行っています。



「安倍政権はこの国をどこに連れて行こうとしているのか」

9月27日(土) **「福島県九条の会」講演会** ○会場:福島市 福島県文化センター

13:00 開会/ごあいさつ 13:20 第一部 平和を歌う 佐藤真子氏 ○資料代1,000円

14:20 第二部 記念講演(東京大学大学院 総合文化研究所教授) 高橋哲哉氏

15:50 閉会

○講師の高橋哲哉氏は、1956年福島県生まれ。県立福島高校卒業。20世紀の西欧哲学を研究しながら、哲学者としての日本の政治・社会・歴史の諸問題を活発に論じ、市民運動とも連携してきた。著書『記憶の工チカ』『戦後責任論』。



新刊案内



「憲法主義」 ¥1,200+税

内山奈月・南野森著・PHP研究所
憲法48条と100条をコンサートでスラスラ披露したAKB48の内山奈月さんに、九州大学準教授南野森氏が、憲法の基本を分かり易く2日間で集中講義した内容を本にしたもの。



内山さんは今年4月、慶応大学経済学部に入學した19歳の人気アイドルです。

8・15戦災と3・11震災

なぜ差別は繰り返されるのか
片野 勸



『8・15戦災と3・11震災』

片野 勸著・第三文明社 ¥2,200+税

戦災の体験者と、東日本大震災の体験者を全国各地に訪ね、丹念に聞き取り調査された大作です。

体験の合間には、古今東西の識者の<名言>が適宜挿入され、深い内容になっています。南相馬市の身近な、お知り合いの方々や、「はらまち九条の会」会員の体験もたくさん掲載されています。忘れてはいけないこと、若い世代にも読んでいただきたい体験集です。

『日本は戦争をするのか』

半田 滋著・岩波新書 ¥740+税

半田氏は、東京新聞論説委員で防衛問題の著作も多い。集団的自衛権容認で自衛隊はどうなるのか、安倍首相のあきればかりの驕り、勘違い、不勉強、虚構を論破し、その危険性を指摘。

『JR上野駅公園口』

柳美里著・河出書房新書 ¥1,400+税



芥川賞作家柳美里(ゆうみり)氏の最新小説。主人公の男性は、

南相馬市鹿島区八沢に、現天皇と同じ昭和8年生まれという設定で、東京五輪の前年に出稼ぎのため常磐線で上京する。上野公園でホームレスになり、大震災の津波で帰るべき故郷を失う。

相双地区の歴史を踏まえ、天皇制を絡め、「居場所のない人」や震災で警戒区域になり「居場所を失った人」を対比した暗く重いテーマです。

でも、真宗移民も詳しく、相馬野馬追祭、松永牛乳のアイスまんじゅう、今野畜産のメンチ、原町の丸屋、原高校歌も登場したり…。

柳氏は震災直後から南相馬市に入り、12年3月から臨時放送局「南相馬ひばりFM・ふたりとひとり」の番組で、市民200人と対話するなど、南相馬の市民を温かく激励されています。

○「新刊案内」「読書案内」に、皆様の「お薦めの本」を事務局へお知らせください。

